

アクティブ・ラーニングと国語の力

横浜国立大学教授

高木まさき



1958年、静岡県生まれ。横浜国立大学教授。中央教育審議会国語ワーキンググループ委員、全国的な学力調査の実施方法等に関する専門家検討会議委員などを歴任する。「ことばと学びをひらく会」会長。著書に「[[他者]]」を発見する国語の授業（大修館書店）など。光村図書 小学校・中学校「国語」教科書の編集委員を務める。

資質・能力とアクティブ・ラーニング

二十一世紀は、いわゆる「知識基盤社会」の時代だといわれてきました。さらにこれからは、グローバル化・情報化がいつそう進み、将来の予測が困難な、複雑で変化の激しい社会状況が想定されています。そのような時代にあっても、子どもたちが個々の人生を切りひらき、ともによりよい社会を創り出していくよう、必要な資質・能力を育成することが求められます。

学習指導要領の改訂に向けて、中央教育審議会（中教審）では、全ての教科等において、次の三つの柱に基づいた資質・能力の構造化を進めています。

- ①何を理解しているか、何ができるか（知識・技能）
- ②理解していること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
- ③どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力・人間性等）

これらの資質・能力は、それぞれ別々に育まれるものではありません。①②③が相互に関連し合い、総合的に育まれるような質の高い学習の在り方が求められているのです。

そこで注目されたのが、アクティブ・ラーニングという学びの視点、すなわち「主体的・対話的で深い学び」をいかに実現するかという学習・指導改善の視点です。

アクティブ・ラーニングは「型」ではない

「アクティブ」というのは、「活動している形態」のことではなく、いかに子どもたちが頭の中を活動的にして、しっかりと考えているかという「学びの質」に関わるものです。新しい方法論が出てくると、どうしてもその展開のしかたに注目がいきましますし、なかには「アクティブ・ラーニング型の授業」を提唱する研究者もいます。

しかし、今求められているのは、特定の指導の型や方法ではありません。あくまでも、無限の学習プロセスからの「学びの質」の問い直しだということに留意すべきでしょう。では、国語科とはどう関わるのでしょうか。

アクティブ・ラーニングと国語の力

①アクティブ・ラーニングを支える言語活動

文部科学省の「用語集」では、アクティブ・ラーニングの例として、問題解決学習や調査学習、グループワーク等を挙げています。これらの学習活動を、主体的・協働的で、思考・判断・表現を伴う深い学びにするために、「話す・聞く」「書く」「読む」などの言語活動はこれまで以上に重要な役割を果たすのです。

②アクティブ・ラーニングを支える国語の力／アクティブ・ラーニングが育む国語の力

個々の言語活動は、言葉の力によって支えられています。また、主体的な言語活動を展開するアクティブ・ラーニングを通じて、言葉の力はさらに身につくものです。言葉がもつこの二つの側面を常に考えていく必要があります。

③言葉への気づきを学習の軸に

中教審の国語ワーキンググループでは、深い学びのために重要な「国語科ならではの思考の枠組み」として、「言葉に着目して言葉の働きを捉える」という国語科固有の視点を踏まえ、理解したり表現したりしながら自分の思いや考えを深めることが示されました。これはかねて私が重視してきた「言葉への気づき」につながるものです。言葉の働きや機能に着目させ、言葉に関わる深い学びを実現することがいつそう求められます。

④評価の観点が大きく変わる

三つの柱に基づいた資質・能力の構造化に伴い、国語科の評価観点は、領域に応じた従来の五観点から、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」の三観点となるようです。アクティブ・ラーニングとの関連や具体的な評価方法等については、今後の検討が待たれますが、大きな変更点として留意しておきたいところ

子どもとともに学びを楽しむ、深める

子どもの側から考えると、特に学びに向かう力は、学習そのものが楽しくなければ育っていきません。また、単に何かができるようになるだけでなく、それが生き方や人生とどう関わるのかを実感しながら、言葉の働きや表現することの意味を考えていく、というプロセスが重要な意味をもちます。

今、あらためて、生きていくことと国語の学習とがどうつながるのかという観点から、学びを楽しむこと、深めることを問い直していきたいと考えます。

高木先生が会長を務める「ことばと学びをひらく会」で研究大会が開催されます。ぜひご参加ください。

ことばと学びをひらく会 第10回研究大会

- 日時：平成28年10月22日(土)10:00～16:40
- 会場：慶應義塾大学 三田キャンパス
- 大会テーマ：「子どもとともに学びを“楽しむ”“深める” ―国語科におけるアクティブ・ラーニングの展開―」

特別記念対談
詩人 谷川俊太郎 × 詩人 工藤直子

この他、シンポジウム、ワークショップなど盛りだくさん！
詳細は、本誌同封のリーフレットにてご確認ください。

- 参加費：一般3,000円／学生・院生1,000円
- 申し込み：ウェブサイトより受付中
<http://www.kotoba-manabi.jp>

ことばと学びをひらく会 **検索**